

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 千共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
E-mail:shimpoh-c@uccj.org
発行人 竹前昇
編集主筆 竹澤知代志

夏に集う若者たち 2006

「人生のロードマップ?」主題に

五〇年以上の歴史を持つ東日本ユースキャンプ

東日本ユースキャンプは、東日本同信会が主催し、同志社大学神学教育後援会が後援となつて行われるキャンプで、五〇年以上の歴史を持つているキャンプである。

最初は、東日本高校生献身修養会という名前で、献身者を募る目的で実施されてきた。五年前より東日本ユースキャンプと改名したが、その精神、内容などは今でも引き継がれている。

東北から関東までの諸教会に呼びかけ、高校生以上二〇歳未満の若者たちが参加する。スタッフは全員が牧師で、今年は、安藤昭良



参加者 12 名+スタッフ、伝統は 50 年引き継がれ

牧師(小出教会)をチャレンとして、山下智子牧師(会津若松教会、与那城初穂伝道師(国分寺教会)、佐原光児伝道師(豊南坂教会)、北村裕樹伝道師(町本郷教会、そして、主事として千葉敦志牧師(太田八幡教会)。講師は、同志社大学神学部から原誠先生をお迎えして行われた。

三泊四日のスケジュールで行われるこのキャンプに今年は、男子三名、女子九名の合計十二名が参加した。以前は四〇名程も集めた時もあったのだが現在では、例年これくらいの人数である。

今年は、主題を「人生のロードマップ?」とし、ルカによる福音書19章57節の「イエスとザアカイの出会い」に主題聖句を求め、講師の原先生による主題講演を切っ掛けにグループディスカッション中心に進められた。また、神学部というのはどういう学部なのかという事も、同時に紹介される。

特に今年は、この他に元ハンセン病患者の国立療養施設、栗生楽泉園を訪問する事ができた。園内にある聖公会の聖慰主教会のお世話を頂き、松浦牧師、教会員の石浦兄、藤田兄のお話を聞き、また、資料館や納骨堂、重監房跡などを見学させていただいた。この体験は、参加者のみならず、スタッフにとっても有意義なものであった。

若者たちと深く話し合う中で、参加者の一人一人には夢があることを知らされた。幼児教育の仕事をしたい、「先生になりたい」、「牧師になりたい」という人も当然いた。私たちは献身とは一体なんだろうかと問い、そして「牧師になるだけが献身ではない」という結論に至った。神様が与えて下さったタラントを用い、主の枝として働く決意

「Passion lives here in Fukuoka Young Camp. -すべての熱情、感情がここに-」 福岡地区ヤングキャンプ

八月七日(月) 津屋崎の夜は熱かった。福岡地区ヤングキャンプ(八月六日、八日、津屋崎教会にて開催)二日目夕食後、津屋崎海岸で夕陽を背にして、キャンプに参加した約三〇名のティーンエイジャーの若者たちは、熱心に講師の話に耳を傾けた。

講師西岡巖牧師(現福岡渡辺通教会)は「とらえられた私」との主題のもと、ご自分の愛する「子女を二歳で天に送られた経験より『もし神様に出会ったら、殺してやりたくないだろ』『そんな思いで牧師を続けた。大抵の牧師は、熱心に祈れば祈りは聴かれると言っけれど、僕は娘の命を生かして下さいという祈りが聴かれない所から、牧会



津屋崎海岸にて

が始まったのだ」と、パウロの喜びの書簡、フィリピの手紙から、純粋な瞳の子どもたちに、熱く語りかけられた。かつて、キリスト教徒を憎み、殺していたパウロが、回心後実は、神の愛にとらえられていたという驚きの経験と講師の経験が重なる。

サンセットサービスが終わり、夜のとぼりが降りると、二日目の夜を締めくくめるカウンスル(ちよっと粋な大人の、語り合いの)フアイヤーが始まった。約五〇名弱の参加者、スタッフ全員が輪になって座り、手には蝋燭をもって。

蝋燭の仄かな光が、様々な背景の中で、精一杯青春している、人に言えない悲しみや苦しみを心に秘めつつ、でも精一杯自分なりの生き方で自分なりの愛し方で、人と接して生きている参加者一人一人のかけがえない顔を優しく照らし出

す。「君は愛されるために生まれた」(コズベル)のメロディーがギターで流れると、普段は声を出して歌うこと、「ちよっと照れるよね」って思う彼らが、自然に、一人一人の声をお互いに聞き分けるように、かすかな、でもしっかりとした綺麗な声で心から歌い出して。美しいハーモニーでみんなの心、一つに! 参加した子どもたちは、日本でも有数の名門校の子もいれば、学校の枠に、自分の生き方が合わなくて、すでに社会で生きている子どももおれば、若い頃フーテンをしていた牧師(キャンプリーダー)か?もいたりする。でもでも、どんな人も、誰もが、神にとらえられ愛されていることを、このキャンプに参加した子どもたち

Passion lives here. (人間のすべての感情、熱情がこのキャンプに参加した子どもたちの中に生き生



栗生楽泉園の納骨堂前で祈る参加者

集にして参加者をはじめ、協力して下さった教会に送っている。

最後、軽井沢駅前で祈り、原誠先生の祝福を頂き、全てのプログラムは終了し、参加者たちはそれぞれ与え

られた場へと散らされていった。以上、感謝を持ってご報告する。
(千葉敦志報)

きしていたね!」これが筆者の感想。

また来年 Young good Guys のキャンプで会おうね! 寝ている場合ではない、朝まで語ろうぜ!

荒野声

▼テントキャンプも三日目夜、一大イベントのバーベキューが始まった。畳一枚分の鉄板に、あらゆる具を載せて薪で焼く。菜箸を伸ばしても届かないし熱い。一人がシャベルを持ち出して、具をかき混ぜる。他がつぶやいた。「便所を掘ったシャベルなのに」。高校生がこれに反応する。「キャンプ、キャンプ」。▼キャンプだから許される範囲内だと言う意味で、このキャンプでの流行語・合言葉となっていた。中学生の女の子も、便所シャベルでかき混ぜた肉や野菜を、まあたくさん食べること。「キャンプ、キャンプ」。▼湖畔の上下水道もないスキの原で、草をなぎ倒し、便所を掘ることから始まるこの企画を、中高生は献身ではなくサバイバルだと評した。第一回目には台風に襲われ、真夜中テントにぶら下がり、飛ばされるのを防いだと聞く。体験は、伝説となって語り継がれる。▼バーベキューが初日だったなら、誰も箸をつけないところ。共に過ごすことで出来た連帯感が、この鷹場、寛容さをもたらした。「キャンプ、キャンプ」。

(江口充報)

内閣総理大臣 小泉純一郎 殿

小泉首相の靖国神社参拝への抗議声明

わたしたち日本基督教団は 8 月 15 日の敗戦記念日に小泉首相が内閣総理大臣小泉純一郎と記帳して靖国神社に参拝されたことに強く抗議します。

わたしたちの教団は、1941 年に大日本帝国憲法下に設立されました。天皇を頂点とする国家神道を宗教を超えたものとして、天皇崇拝や神社参拝を国民儀礼として求められ、受け入れました。そればかりか朝鮮、台湾をはじめアジアの諸教会にもそのことを奨励しました。また、国家の戦争政策にも協力しました。1967 年に、わたしたちはこのことを心から悔い改めて再出発したのです。

靖国神社は太平洋戦争までは国のため、ひいては天皇のために戦死した人々を英霊として祀る国家が創設した神社でした。しかし、そのことから起こった思想、信教の自由の抑圧を反省し、戦後には靖国神社は国の保護から離され、一宗教法人として活動しています。しかし、このような歴史をもつ施設に私人としてとは言いながら「内閣総理大臣」という肩書きを記名しての参拝は憲法の政教分離の原則を犯したものです。

ご承知のように、1978 年に靖国神社には東京裁判で A 級戦犯とされた人々も合祀しました。このような人々をも英霊として認め、参拝することは、靖国神社の歴史観を認め、かつての日本の東アジア地域へ侵略戦争を肯定することになります。さらには、戦後 60 年の節目に発表された談話で「植民地支配と侵略によりアジアの人々に多大な苦痛を与えた」「痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明する」と言われたことに反することとなります。ここに強く抗議します。

2006 年 8 月 17 日

日本基督教団 総会議長 山北 宣久

社会委員会委員長 小出 望
靖国・天皇制問題小委員会委員長 村田 元



日本各地、インドからも参加者

八月一〜四日、大阪のいずみ教会で青年ゼミが行なわれました。日本各地や、インドからの参加者が集まり、大変にぎやかなものに

なりました。

北海道出身の私は、部落差別問題と直接関わる機会がなく、この和泉の地に来て初めて体感を伴いまし

た。しかし何故、部落差別が存在するのか、私には全く理解できないのです。

日本には古くからケガレという信仰があり、そのことによって特定の職業に就いていた人たちが、穢れた身分とされ、部落民とされるようになったそうです。そしていつしか、その地域に住む人々が、差別されるようになったということを学びました。中世、あるいは近世から続く差別問題は、身分制度がなくなった今もなおステレオタイプのに残っている。そして、そのことによって、悲しみや苦しみを抱えている人がいることを知りました。

一方で、必ずしも全員が差別体験を受けたという実

感があるわけでもないことも、青年部のある方の話で知ることが出来ました。自分が被差別部落出身であることがステイグマとなっている方がいる。しかし、その一方で漠然としか感じることが無かった方もいることも事実だと知りました。しかし、その方も差別問題は漠然としか感じていなか

関係者でいっしょ!! さよなら無関心 部落解放青年ゼミナールに参加して

った中でも、解放運動に魅力を感じていたことも事実でした。

今回のゼミでは、地域を回りながら、聖神社、信太の森ふるさと館、佐竹ガラ

スなどの見学をさせていただき、部落の歴史を学び、体験しました。また、五十嵐照美さんや南口昇さんによる講演や、V・L・ポール・ナッカさんによるインドにおける差別問題の報告など、さまざまな人の視点による、差別問題意識を聞くことによって、自分の考えを振り返ったり、新たな

グローバリゼーションの時代にあっ

ス約 ス協

七月二日に教団事務所に、第二回スイス協約委員会が開催された。

七月二日に教団事務所に、第二回スイス協約委員会が開催された。

（スイス東アジア・ミッション）の長年の宣教協力を基盤として、SEK（スイス福音主義教会連盟）との宣教協約を結び、現在も SEK の宣教師が日本で活躍し

ている。二〇〇一年には SOAM（スイスの海外宣教団）と連携して、mission21 を結成した。それ以来、教団は mission21 のアジア

（礼幌北光教会・菅原直子報）

今年十一月には、スイス・日本・韓国三国間協議会が、スイスのバーゼルで「God's Migrating People」というテーマのもと開催される予定である。この三国の教会が、それぞれの国における難民の問題とそれに対する教会の取り組みについて話し合い、互いに宣教の課題を分かち合い、今後



今後の宣教協力のあり方を協議

発見が出来たりしました。今回のゼミのテーマ「関係者でいっしょ!! さよなら無関心」は、私の心に深く刺さりました。何か・誰かを知らうとすると、その事・もの・「関係」を築くことになります。しかし、近くにいっても必ずしも関係者になるわけではありません。関心を持つことによって初めて関係者になるのです。今回「関係者」の皆さんに出逢えてよかったと思います。

宣教協約の実質化に取り組んできた。しかし、二〇〇六年三月に SOAM が mission21 を脱退し、独自の活動を続けていくことになった。教団は、SOAM を通じて SEK と繋がっていた。mission21 から、今後関係も断絶していきたいとの申し出があり、委員会としては、SEK や mission21 と教団のこれまでの関係を尊重し、今後も宣教協力を続けていくことを決議した。

の宣教協力のあり方について協議しあう場である。グローバル化の時代において、宣教の取り組みも国際的な協力が必要になりつつある。欧米の宣教会が持っているネットワークを通じて、どのように諸外国との教会の関係を深めていくかが世界宣教の課題である。

なお、この協議会は、本委員会への任期を超えて行われるものであるが、すでに準備に取りかかっている。本委員会において協議会に関する様々な事項を決定することを確認した。

（中道基夫報）

「信教の自由」について協議

国制 靖天皇

今総会期第四回目の「靖国・天皇制問題小委員会」が七月四日と五日と教団会議室で行われた。

村田元委員長が欠席のため村田委員長の名で須賀誠二委員が司会を担当した。

今回の委員会では、国際基督教大学教授の森本あんり氏に「信教の自由と憲法」アメリカの歴史の実験に学ぶ」という講演をしていただき、靖国問題、靖国問題から見た憲法改正の動向、宗教に関する判例の読

み方、さらには宗教団体と国家との関係の背景となる「信教の自由」の問題について協議を行った。

「宗教的寛容」と「信教の自由」との関係と違い、また「政教分離」と「信教の自由」との違いなどを明確に、歴史的に説明していただき、靖国問題や憲法改正における宗教問題、あるいは最近盛んに論じられている愛国心について考える場合に必要なスキルを与えていただいた。

行動や運動、批判のためにはまず正しい理解が必要であり、その意味では有意義な講演であり、今後社会委員会通信などで内容を紹介して行くことにした。

協議事項では、今総会期のまとめと次期総会期への申し送り事項の検討、NC

主イエスの赦しと癒しにより

者別 障害差

第34総会期第四回障害者差別問題小委員会が、教団会議室にて六月二九・三〇日に行われた。

委員が、マタイ伝9章1〜8節より「自殺者が三万人を超えている現代において、赦しと癒しが分けがたく存在していること。自分

は自分自身に絶望しても、主イエスは受け入れて下さっているという恵みによって、人は生かされていること。御言葉の説き明かしの

中で、主イエスの赦しと癒しを示され、関係を回復しよう。教会は御言葉を宣べ伝えることによって、神様の愛と受容を人々に伝え、苦難の中にある人々と共に生きる」というメッセージを語った。

（堀真知子報）

前回記録承認、第五回宣教会報告が、それぞれ資料に基づいて行われた。最後の委員会なので、委員会の課題などについて自由な討議がなされた。今期委員会は「障害者差別問題と取り組む活動者全国交流会」を開催しなかつた分、学びを深めることができた。その中で障害者を巡ることがからは差別問題だけではないこと、委員会として、もっと教会に貢献できることはないかという提議もなされた。また委員会が発足して、すでに二五年が経過しており、教会・社会の状況の変化に伴い、ハード面は整えられてきたが、ソフト面には問題が残っている。ハンディキャップのある人の来やすい教会は、ハンディキャップのない人も来やすい教会であるという原点に立つて「障害者」という言葉「差別」という言葉も含めて、これからも課題として検討していくべきではないかという提議もなされた。このように、これから検討していくべき課題も多いので、宣教会員に、当委員会の継続を求めることとした。第35回教団総会「報告書」は、決算報告も含めて承認した。

二〇〇八年度には「障害者差別問題と取り組む活動者全国交流会」を開催することとなっているので、そのための募金をお願いしたい。また、ニュースレター「かがやけども」第二号を十一月に発行するので、お読みいただきたい。

「宣研五〇年の歩み」を冊子に

第四回宣教研究所委員会

七月二六・二七日の両日、第34総会期第四回宣教研究所委員会が教団会議室において開催された。

今回は、今総会期の最後の委員会として、主に前回からの継続審議事項と次期総会期委員会への申し送り事項について話し合いがなされた。



継続的に取り組むべき課題が多く

①資料の保守整備について、「教団年鑑」「教憲・教規」の「コピー」製本はほぼ完了。次に「教団総会議案報告書及び議事録」の「コピー」製本に取りかかる。

②「クアア伝道プロジェクト」が完了した報告を承認。

③「九、一・二の記録」オンライン出版がほぼ完了した報告を承認。

④「万博・東神大・教師検定試験問題年表」の「東神大年表」について、研究会を立ち上げることが前委員会で承認されたが、山口隆康氏、近藤勝彦氏、芳賀力氏に研究員を委嘱すること可決した。

⑤「教団史資料集第4巻」の宣研設立当時の記録について、改訂増補の必要があることが前回において加藤幹夫書記より指摘され、今

回、改訂増補案が出され協議した。この案を踏まえ、さらにそれ以降の歴史を加えて、「宣研五〇年の歩み」を含む冊子をまとめることとした。担当は、橋爪忠夫委員長、加藤幹夫書記、福島義人委員。次期委員会に素案を提出することとした。

⑥聖礼典執行に関して。既刊の先例集に記載されていない答申に関する資料の提出を信仰職制委員会へ再度お願いすることを承認。

次期総会期への申し送り事項については次の通り。

①「宣研五〇年の歩み」を含む冊子を発行。これによって、宣研の働きを内外に知らせ、これからの歩みを方向づけたい。特に本来の理念を活かす形で、現代の

ジャカルタ日本語キリスト教会

松本章宏宣教師派遣式が六月二九日に大宮薄世界宣教協力委員長の説教、上田博子宣教師の司式により、教団会議室で執り行われた。

松本氏は北海道で道立高校の英語教師として勤務した後、韓国の亜細亜連合神学大学院で学んだ。同校卒業後、北海道十二使徒教会を二〇〇五年三月まで牧会した。その間、米国ウェスタン神学大学院で一年間学んだ。

その後、シンガポールの弟子訓練センターで研修を受け、この度、ジャカルタ日本語キリスト教会の招聘により宣教師として派遣される運びとなった。教団からジャカルタ日本語キリスト教会へは、初めての宣教師派遣となる。

インドネシアではイスラム教・仏教・ヒンズー教・キリスト教が公認され、イ

大阪教区 共に歩むために 向井希夫

教区議長に選ばれてから、教団以外の教派・教会の会議等に出席する機会が与えられ、感謝しています。特に、「宣教協約」を結んでいる在日大韓基督教教会・関西地方会総会には毎年出席させていただいています。

教区 コラム

今年度、初めて総会中の按手礼に出席、按手に加わり新しい牧師の誕生を共に祝福することがゆるされました。式の誓約の中で「どんな迫害や反対があっても忍耐し

…福音の真理を守り…」との問いがあり、わたし自身ドキッとした。もちろん彼らが歩んできた歴史の中から出た言葉にちがいない。そして、2条「真理と行為の立場」と続きます。

わたしは、按手礼で上記のような誓約をし、また上記のような憲法を持つ教会と「協約」を結んでいる恵みと意味をあらためて思わ

を讀みました。第1章「原理」、第2章「教会」（以下略）です。「原理」の第1条は「良心の自由」で条文はこう結ばれています。「私たちは全ての信仰問題に関して各

(大阪教区総会議長)



松本章宏宣教師夫妻と次男

消息



白神章道氏(水戸教会牧師)

一月二日、逝去。七〇歳。岡山県に生まれる。一九六一年同志社大学神学部卒業後、倉敷教会に赴任。その後、霊南坂、中目黒、緑野各教会を経て、七九年から水戸教会を牧会した。遺族は妻の宏子さん。小川貞昭氏(隠退教師)



七月九日、逝去。九九歳。東京都に生まれる。一九三六年青山学院大学神学部卒業後、柿ノ木教会に赴任。八六年の隠退まで同教会を牧会した。遺族は妻の文さん。樽川 潤氏(隠退教師)



七月一七日、逝去。六九歳。東京都に生まれる。一九六二年同志社大学大学院修了後、西宮教会に赴任。その後、倉吉、桐生東部各教会を経て、九七年から二〇〇五年まで扇町教会を牧会し隠退した。遺族は妻の早苗さん。

お知らせ

★特別展「満州基督教開拓村と賀川豊彦」記念礼拝と講演会(時)10月3日(火)14時~16時半/所(賀川豊彦記念松沢資料館 礼拝堂)第一部(記念礼拝 挨拶 山北宣久教団総会議長、與石勇NCC議長、第二部(記念講演 石浜みかる氏、証言 榎本和子氏、第三部

公告

第35回 日本基督教団総会開催について
第35回 日本基督教団総会を左のとおり開催いたしますので、ここに公告します。
会期 三日間 二〇〇六年十月二十四日(火)午後一時三十分~二十六日(木)午後三時
会場 ホテルメトロポリタン 東京都豊島区池袋 丁目六番一 号
二〇〇六年八月一日 日本基督教団総会議長 山北宣久

一、傍聴資格は、本教団の教師及び現住陪餐会員たる信徒に限ります。なお、信徒の方は所属教会牧師の推薦を要します。
二、参加費 五千元(会場費二千元、資料代三千元)を同封の上お申し込みください。
(傍聴券を発行します)
三、宿泊を希望される方は、左の費用をそえて申し込んでください。
宿泊費 泊朝食付(ツイン利用一名) 一万五百円
四、申込先 日本基督教団事務局総務部
五、締切日 十月三日(火)
六、傍聴は事前申込み者に限っておりますので、ご注意ください。当日申込みは認めません。
七、建議・請願の締切は十月三日になります。

事務局報

補教師登録
池田多実男、四之宮早苗(二〇〇六・四・二九受允)
池谷明高、橋本かおり(二〇〇六・五・二二受允)
柳田かおり、中込己一郎(二〇〇六・五・二八受允)
姜倅米、貴村かたる、西田浩子、野口 敬、堀江綾子、本多峰子、山口俊明、山田啓人、中尾 勉(二〇〇六・五・二九受允)
石井佑二、近藤国親、瀧山結実、宮島牧人(二〇〇六・五・三十受允)

飯川雅孝、遠藤 亮、高 鏞熙、嶋田恵悟、細川美英江(二〇〇六・六・二四受允)
関根泰代(二〇〇六・六・二六受允)
正教師登録
上條 悟元 正章(二〇〇六・五・二二受按)
佐々木睦子 稻生勝也、富井鉄兵(二〇〇六・五・三十受按)
所在地名変更
吾妻 吾妻郡東吾妻町大字 原町四四四の九 天草平安 天草市大浜町 一七の十一 矢吹 西白河郡矢吹町 本町一四二

伝道のともしび

聖書研究会

土浦教会牧師 吉岡 誠人

に私が主任となった時点では火、水、木、金と四つの別々の聖書の箇所て講義をしなければなりません。これは新任の者としては大変な重荷でした。毎日曜日の説教と共に、毎日別々の箇所に基づいて準備をしたのでした。しかし幸いなこと(?)に私の講義には毎日出席する人がなかったのと同じ箇所て火、水、木、金と講義する事にしました。

私としては自分の講義がどのよううに受けとめられているか知りたいうという思いもあり又出席者が真剣に出席して欲しいという願いが

であって講義の後に出席者全員に感想なり自分の意見なりを述べてもらう事としました。各地の会は多くて八人程度でしたので全員が語る時を持てました。そこでこの会に聖書講義という名前ではなく、聖書研究会という名前に変更しました。その事は出席者には課題となりましたが多くの賜物を与えられました。その一つは私自身の伝えたかった事が伝わっていないという事実面に直面し反省する事が出来た事と、私が思った以上にすばらしい解釈が語られ聖書の言葉が出席者のそれぞれの魂を通して生きた言葉として語られ又聞かれたと言つ事でした。

毎週そのような聖書の学びを通して聖書の言葉を自分の言葉に言い直して信仰を言い表すという事が身について行く人々が何人も出てきました。そのような人々が教会の信仰のリーダーとなつて来るようになりしました。

もちろん私自身も三〇年以上にわたつて自分だけで読むのではなく、様々な人々の魂を通して語られる聖書の言葉が生きた言葉として現出する驚きを通して「聖書は神の言葉である」という信仰を心の底から告白する者となつて来たと考えています。神学校に入る前には「イエス様は救い主です」という信仰を告白していま

したが、伝道者となつて聖書研究会を持つようになってからは、聖書は神の言葉であるという信仰が深められたと思います。さらに、聖書が生ける言葉として語られ又聞かれるに至ったことを通して、二十数年の間に私の中に固まってきた信仰は「教会は主キリストの体にして恵みにより召された者の集いなり」という信仰です。

聖書研究会で聖書をじっくりと読む事を学ぶ中で説教において聖書の御言葉が生きた神の言葉として力強く語られ、御言葉が受け容れられているこの教会がキリストの体であるという信仰が深まったのです。

毎週の日曜日の礼拝の時に私たちの教会では日本基督教団信仰告白を唱和します。「教会は主キリストの体にして恵みにより召された者の集いなり」と実感を持って告白するようになりしました。最近四〇周年を祝ったところですが、聖書の御言葉によつて基礎を据えられ、神さまの恵みによつて成長させて頂いた結果、豊かな実りを与えられております事を心より感謝しております。



阿見町での聖書研究会



天川町での聖書研究会



創立40周年記念集合写真



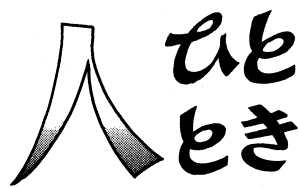
教会での聖書研究会

「隠退教師を支える運動」全教区推進委員会開催



教団会議室のベランダにて

「隠退教師を支える運動」全教区推進委員会を六月二七日と二八日、教団会議室で開催した。一年に一度、各教区(東京の各支区共)から推薦された推進委員が集まり、日頃の推進活動について報告し合い、更にこの一人が一月に一〇〇円を献金する運動が広がって行く希望について話し合う会である。出席者は事務担当者を含めて二七名。教団からは総務幹事の愛澤豊重氏、年金局理事長小林貞夫氏、同業務室長青地恵氏の出席を得て三〇名であった。開会礼拝で愛澤幹事より「神からの招き」(エフエソ4章1節〜6節)と題して「この隠退教師を支える運動に送られて来る郵便振替用紙の伝票一枚一枚に、この運動に参加協力されている各教会の信徒の信仰と証しと交わりが実現されていることを感じている。教会において、信仰においてそれが実現されている」という励ましの説教をいただいた。多田信一委員長、小林年金局理事長の挨拶があり、二〇〇五年度の事業報告及び決算報告等を承認した後、年金局業務室長から「教団年金局の事業状況」の詳しい説明を聞き、その厳しさを再認識した。「それぞれの教会に召命によつて違わされ、み言葉の役者として伝道と牧会に専心されている教師に、私たちは心から感謝いたします。私たちは、それぞれの教師が長年にわたり、伝道と牧会に全生涯を捧げられて隠退されてからの生活を少しでもお支えしたいと念願しております。このことは、私たち信徒の祈りであり責任であると自覚しています」以上は「隠退教師を支える運動・私たちのビジョン」の抜粋であるが、今回はこの「ビジョン」の全部を出席者全員で朗読した。教団全体としての「隠退教師を支える運動・一〇〇円献金」に対する参加・協力は、まだ50%未満であるが、更に多くの教会が参加して下さるよう推進活動に励むことを申し合わせて散会した。(多田信一報)



北橋 節男さん

子供たちと地域を巻き込む、風呂屋のおやじ



1959年生まれ。藤沢北教会員。「栄湯湘南館」経営、亀井野小学校PTA会長。

小学校時代、紙芝居に誘われて教会学校に通い始め、やがて自身も教会学校の教師を二〇年担当することとなる。高校教員をしていた独身時代に父親を亡くし、家に戻って母親と共に家業の銭湯を続けた。教員を続ける道もあつたが、銭湯を選んだのは「銭湯が人の心の奥に効き目があるすばらしい商売だと思えた」からだ。

同じ教会員の敬子さんと結婚。銭湯と家庭と教会の生活を歩み六人の子供に恵まれた。上はようやく高校一年、下はまだ四歳。おかげで小学校、中学校とも長くPTAに関わり続け、地域ぐるみで子供を育て、近所づきあいの場を作るために知恵を絞る、汗を流す。

自分の欲求や都合ばかりでは社会は動かないことを学び、他人の弱さを知り、思いやる心を育てたい。それには、低学年の時に友だちや先生と一緒に入浴体験をするのが一番と、校長に主張した。今では学校と地域の大切な恒例の行事となった。さらに、地域のオヤジたちも引き出し、巻き込み、学校・家庭・地域の連携作りに励む。家庭でもいつも怒鳴り声と泣き声があふれているが、毎日が感謝。「銭湯も家庭も教会もつながって、子供と学校と地域が支え合う。歯車が回り始めています。地域でも家庭でも、主イエスの復活を信じ行動することに、シンブルで無理がありません。」

小泉首相が靖国神社を参拝した。しかも八月十五日敗戦記念日、本殿に昇殿してまでである。「公約通り」というが、一体誰に對しての公約なのか。それは総裁選挙の際の自民党に対してであり、また日本遺族会に向けてである。

祈っている中で

ば危ういと痛感させられる。八月十五日、多くの人々と千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて、平和祈禱会を持っていた。雨の中、静かに祈り始めていたが、やがてヘリコプターの轟音で祈りの声も掻き消されがちになってしまった。あとから午前七時四〇分の参拝と知った。

公約といつてもく内輪に對してであり、「公など」という言葉を使える代物ではない。私的な約束を公約として意地でも貫く強引さは、まさに公私混同の成れの果てそのものだ。国民もずいぶん舐められたものだ。本心に目覚めを経験しなければ

もの性格を熟知し、歴史教育の問題点を知り尽していながら参拝を決定する首相において最悪の居直り、開き直りを見てとる。

(教団総会議長 山北 宣久)